

講義名	対2) サービス産業論			授業形態	
担当教員	佐藤 彰宣	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

本科目では、現代社会におけるサービス産業の構造について社会学の視点から読み解いていく。具体的には、サービス業における労働の特徴、ファッション産業の成り立ち、消費文化の仕組みなどについて扱う。これらの事例を社会学の諸概念を用いながら考察し、第3次産業としてのサービス業の今日的な特徴や課題について検討する。

到達目標

- ・現代社会におけるサービス産業の発展の歴史、業界の仕組みを論じることができる。
- ・サービス産業に関連する社会学の概念と理解を理解し、説明することができる。
- ・サービス産業にまつわる現状の社会的課題を社会学の視点から分析することができる。

提出課題

授業内で レスポンス課題、 期末レポートを課す。
レスポンス課題については、毎回の授業内で課し、提出をもって出席とする。なお授業日数の3分の1以上を欠席した場合は、成績対象外となり「放棄」として扱う。いずれの課題においても厳格（出席を表記しないネット記事の書き出し・コピペ）は不正行為とみなす。他の人の課題を写す/写させる行為も不正行為である。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レスポンス課題として寄せられたコメント・質問を、毎回授業内で適宜紹介し、応答する。

評価の基準

成績評価は レスポンス課題（30％） 期末レポート（70％）によって行う。
これらにおいては、（1）授業理解度（授業で扱った概念や理論について理解・説明できているか）、（2）分析・考察（授業で学んだ概念や理論を用いて、特定の現象の原因や仕組みを論理的に説明できているか）を問う。

履修にあたっての注意・助言他

日常生活のなかでも身の回りのサービス産業に関する情報や知識を積極的に集めておくことで、授業内容についての理解もより深まることが期待される。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.生きることの社会学。	川田耕	世界思想社		9784790717348
.ファッションで社会学する。	藤田結子ほか	有斐閣		9784641174313

その他

適宜レジュメを配布する。参考文献は各回のなかで別途案内する。

授業計画

1. 授業の導入：「サービス産業」とは何か
2. ファッションから読み解くサービス産業の仕組み：産業革命の余波
3. ファッションから読み解くサービス産業の仕組み：見せびらかしの消費
4. ファッションから読み解くサービス産業の仕組み：アメリカ式生産・消費
5. ファッションから読み解くサービス産業の仕組み：消費志向の変化
6. ファッションから読み解くサービス産業の仕組み：記号としての消費
7. サービス産業の系譜：大量生産・大量消費から多品種少量生産へ
8. サービス産業の系譜：マクドナルド化する社会
9. サービス産業の系譜：自己アイデンティティとしての消費
10. サービス産業を読み解く視点：フードシステムと「豊かな社会」
11. サービス産業を読み解く視点：「感情労働」
12. サービス産業の事例：広告産業の栄辱
13. サービス産業の事例：日本におけるファンカルチャー
14. サービス産業の事例：ファンカルチャーでの採取
15. 授業の総括：サービス産業を読み解く視点
受講生の関心、授業の進度などに応じて一部内容を変更することがある。また授業内容に関する時事的な話題も扱う。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

サービス産業に関する社会学の体系的な知識を身につけるためには、講義内容についての復習（レジュメおよび参考書に目を通す）をぜひ行ってほしい。また学生の主体的な取り組みとして自学自習を常に受け付ける（週に4時間以上）。講義内容に関連する新聞・雑誌記事についてのレポート、関連書籍の書評など自習の成果の提出を受け付け、評価に加える。様式は自由であるが、必ず出典を明記すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

サービス産業分野の諸現象を社会学の視点から本科目では読み解いていく。こうした視点を得ることは、卒業認定・学位授与の方針として示されている「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のなかでも、特に「情報収集力」、「情報分析力」、「課題発見力」などを養うことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポート課題の提出などは、ポータルサイト「Ryuka Portal」を通して行う。また授業内ではサービス産業の動向をより分かりやすくイメージしてもらうために、レジュメだけでなく新聞資料や映像資料も積極的に活用する。サービス産業が社会とどのような関係にあるのかも意識しながら、新聞資料（労働や消費などに関連する新聞記事）、映像資料（サービス産業に関するドキュメンタリーや映画など）を視聴することで、講義内容への理解がより深まることが期待される。

実務経験の有無及び活用

備考